

# 経済・金融 フラッシュ

## 08年7-9月期資金循環統計： 前年比で過去最大の落ち込み

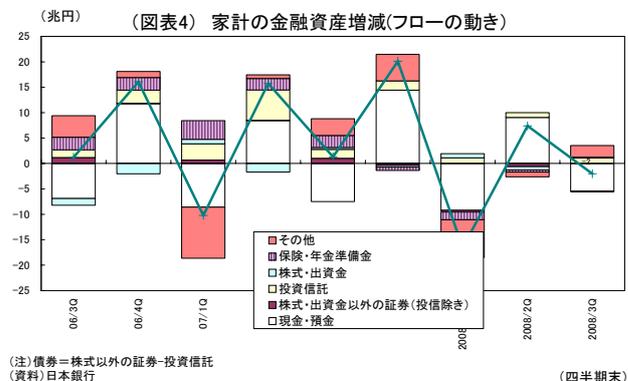
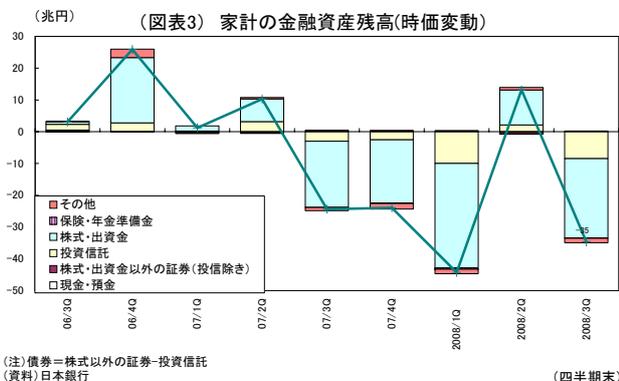
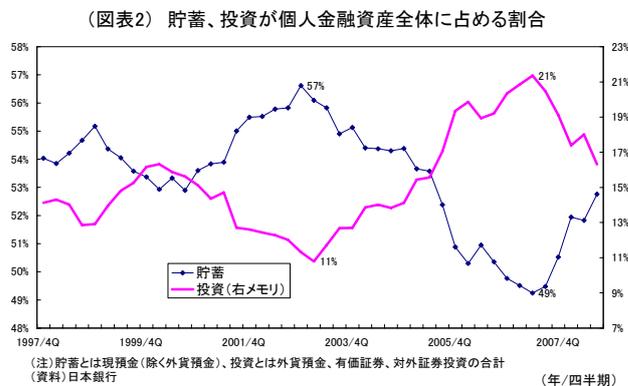
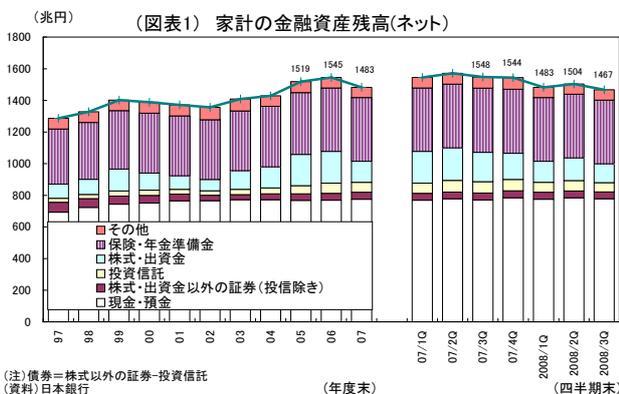
経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 個人金融資産残高：前年比で過去最大の落ち込み

08年7-9月期末の個人金融資産残高は、4-6月期末から37兆円減少し1467兆円となった（図表1）。前年比では▲5.2%と過去最大の落ち込みとなっている。

金融資産の減少は、①株価下落による時価減少（図表3）、②時価変動の影響を除いたフロー（流入）減少（図表4）、の両方が影響している。10-12月以降、リーマン破綻で金融市場の冷え込みは続いており、時価・フロー（流入額）両面での減少の動きは継続しそうだ。



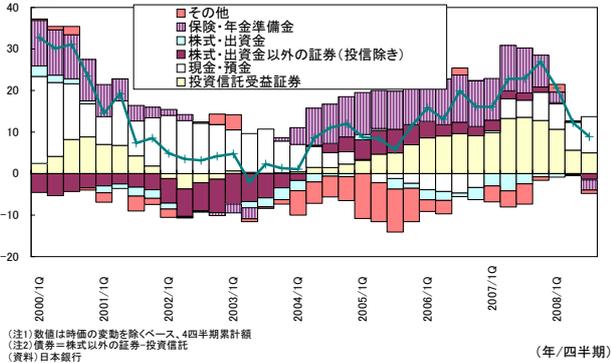
## 2. フローの動き(時価除き) : 安全回避のトレンドに変化なし

個別金融資産の増減を時価変動除き4四半期累計という少し長めの「基調」を捉えたものが**図表5-7**となる。特徴としては以下の点が指摘できる。

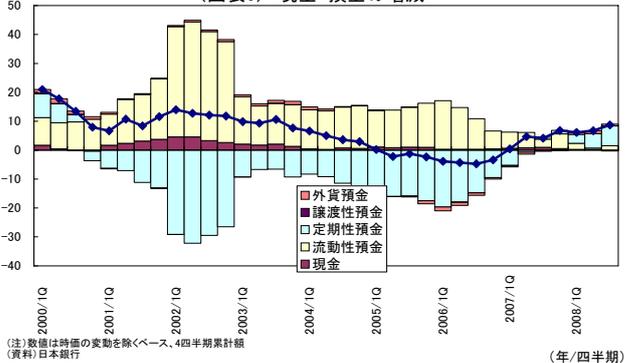
- ① 投資信託への流入額が4四半期連続で縮小(図表5)。
- ② 現金・預金が7四半期連続のプラス(図表6)。
- ③ 定期性預金が5四半期連続でプラス幅拡大(図表6)。
- ④ 証券(投信信託を除く株式・出資金以外の証券)では、引き続き金融債、信託受益権からの資金流出が続く。一方、国債への流入はプラスが続いているが、流入額は縮小傾向が続いている(図表7)。

全体としては、月次のマネースtock統計の動きと同様に「昨年夏以降、投信などのリスク性資産への流入が頭打ち、一方で定期預金を中心とした安全資産への流入増」が確認できる。

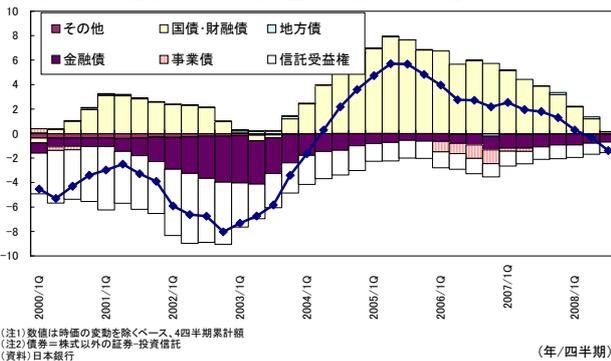
(図表5) 家計の金融資産残増減(四半期)



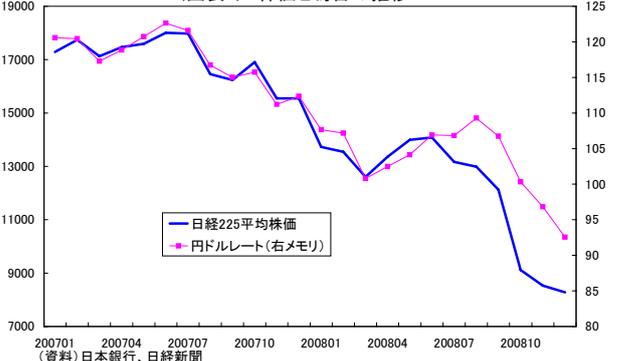
(図表6) 現金・預金の増減



(図表7) 株式・出資金出資証券(除く投信)の増減



(図表8) 株価と為替の推移



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。